

講演会 乱歩と藤堂家 江戸川乱歩没後50年記念／隠街道市第10回記念

日時：平成27・2015年10月10日（土）午前10時開演

会場：名張藤堂家邸跡（名張市丸之内54-3）

主催：名張史蹟顕彰会

講師：中相作^{アラタ}改メ^{おんどり} 雄鶏屋ほんだわら

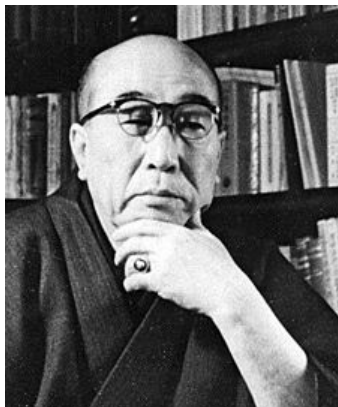
入場料：無料（入館料も無料です）

関連人物

デジタル版日本人名大辞典

江戸川乱歩

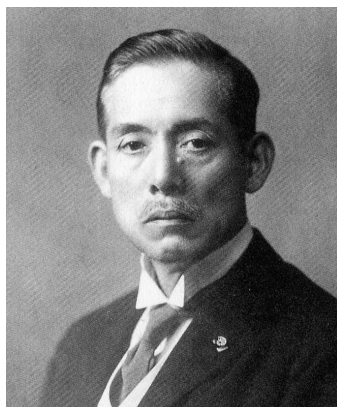
えどがわ・らんぽ



1894－1965。大正－昭和時代の推理作家。明治27年10月21日生まれ。大正12年「二銭銅貨」でデビュー。本格的トリック、奇抜な着想、幻想怪奇趣味などにより代表作「人間椅子」「陰獣」をかく。ほかに「怪人二十面相」など作品多数。戦後は評論集「幻影城」を刊行、江戸川乱歩賞を創設した。昭和40年7月28日死去。70歳。三重県出身。早大卒。本名は平井太郎。

川崎克

かわさき・かつ



1880－1949。大正－昭和時代の政治家。明治13年12月28日生まれ。尾崎行雄に師事し、憲政擁護運動に参加。大正4年衆議院議員（当選10回）となり、憲政会、民政党、日本進歩党などに属した。昭和16年議会で大政翼賛会を違憲として追及し、翌年の総選挙（翼賛選挙）に非推薦で当選。昭和24年2月3日死去。68歳。三重県出身。日本法律学校（現日大）卒。本名は克。

藤堂高虎

とうどう・たかとら



1556－1630。織豊－江戸時代前期の大名。弘治2年1月6日生まれ。浅井長政、羽柴秀長、豊臣秀吉につかえる。秀吉没後は徳川家康にちかづき、関ヶ原の戦いでは東軍に属し戦功をあげた。伊予（愛媛県）今治藩主から慶長13年伊勢津藩主藤堂家初代となる。大坂夏の陣では真田幸村のため苦戦していた家康をたすけた。寛永7年10月5日死去。75歳。近江（滋賀県）出身。

関連随筆

彼

（昭和11年）

人は生涯のある時期に一度は、その祖先に興味を持つものである。彼にもそういう時期があった。彼は分家の跡取りであったから、先祖の系図を持っていなかったけれど、本家に伝わっているそれを借りて筆写したことがある。

彼は現在の境遇に比べては、案外立派な先祖を持っていた。「豆州伊東の郷、鎌田之住、平井太夫嫡男十郎右衛門、寿百十三歳、貞享二年丑年三月七日歿」というものが、わかっている限りの遙かなる祖先であった。伊豆伊東の郷土である。十郎右衛門の娘が伊勢の藤堂高次公に奉仕して次代高睦公の実母となった縁により、その弟友益というものが藤堂家に召抱えられ、寛文九年「二十両六人扶持被下置、定府二被仰付」とあり、系図ではこの人を平井家の初代と数えている。

ふるさと発見記

（昭和28年）

私の本籍は三重県津市にあるが、一度も住んだことがない。祖父の代まで藤堂の藩士で、津市に住んでいたが、父は郷里を離れて、大阪の関西大学を出、しかし、最初の就職は同じ三重県の北部の名賀郡の郡書記で、同郡の名張町に二年ほど住んだ。父はそこで津市から母を迎え、明治二十七年に私が生れたが、生れると間もなく、父は同県亀山町の郡役所に転勤になったから、この生れ故郷の名張町も、私は全く見知っていないわけである。

本籍の津市には私の家の墓もあり、親戚も多く、幼少年時代には、よく遊びにつれられて行ったものだが、その親戚もだんだん少なくなり、今度の戦争で、市の大半が焼けたので、今では親戚も一、二軒になっている。

先生に謝す

江戸川乱歩

（昭和31年）

私は小説の方では直接の師を持たなかったし、その他の意味でも、学校の先生以外には、師と呼ぶ人がないのである。その学校の先生も、小、中、大学を通じて、個人的に親しく師事して、深い影響を受けるといふ関係には至らなかった。そこで、六十年の過去を振り返って見ると、私にとって「先生」と呼ぶにふさわしい人物は、川崎克先生のほかにはないのである。しかし、以前には、口先では先生と呼んでいても、心から先生と思っていたわけではない。それが、ここ数年来、いつとはなく、私には川崎克先生のほかには「先生」と呼ぶ人がないということ、強く感じるようになった。今では「先生」と呼ぶ唯一の人と思っている。